

な内容が考えられる。

- ① 基礎的な電子回路の組立とその応用装置の作製  
整流器・増幅器の組立、これにより抵抗、コンデンサ・ダイオード・トランジスタなど各種素子の働きを具体的に知る。さらに各種変換素子を使い、例えば、夕方自動的に点燈する蛍光灯などを組立てる。
- ② 自動制御技術の基本的考え方の説明  
自動制御技術は電子工学と機械工学を結びつけているものでありぜひ必要である。ここでも制御の為の各種変換素子の知識を与え、さらにフィードバックの概念を教える。この概念は色々な分野に役立つ、現に社会人文科学の面でも盛んに使われている。
- ③ 電子計算機の基本的原理と構造の簡単な説明と作製  
前述の①、②で学んだ事柄を基礎にして、適当な教具(例：素子ブロック)を使うことにより、原理的な模型を作りながら理解していく。主な内容は、高度なものではなく、ごく初歩的ではあるが電子計算機独特の演算方式をとり上げる。ここから新しい情報処理の説明が可能になる。また人間の脳の働きとの比較を行えばさらに興味深いものとなる。

## 総 括

教育改革についてのわれわれの視点が、科学技術の進展に対応する教育内容の現代化により強く志向して、もう一つの面である教育の大衆化に向けられることが少い点について批判があるかもしれない。それはわれわれが普通科を改革すべき当面の問題と考えている故でもあるが、今一つはとくに今年に奇をてらわずに現実の体制の中で、われわれの手で可能な改革のいとぐちを見出すところに重点をおいてみようとしたからでもある。技術学・思考の科学の提案も現在の普通科のカリキュラムに位置づけられる程度のもをねらったのである。

そして基本的には、かりに高校進学率が90%に達し、普通科の中もそれなみにひろがったときでも、内容を現代化することによって落伍する生徒は少くできると考えている。それは内容を高度化することを当然に含むけれど、高度化が必ずしも内容を難解にするとは限らないし、落ちこぼれを多くするとも考えていない。それは現在普通科のレベルが、高度化されているから60%がついてゆけるのでなく、ただ徒らに受験への配慮が内容の量を増大させ、むしろ古典化して来たことの結果として、今日的必要度を感じなくなっている内

- ④ 技術史・技術論  
技術と社会、技術と科学との関係や、技術の発展の仕方を考えていく。
- ⑤ 生産現場見学と実習  
ここでは実験ではなく、実益を狙った真剣な生産労働を行いたい。これを行うには、理想的には、工場や農村へ出かけ実習を行うのがよい。現状では基幹産業の工場見学と、林間学校などでの作業をこれに当てる。

### 参考文献

- ① 高校普通科の教育課程改革の問題、名古屋大学教育学部附属<sup>中</sup>学校紀要第12集 p. 49
- ② たとえば、宮原政一編、生産教育(国土社)1956
- ③ 農村教育を取戻そう 朝日新聞 1968. 1. 5 付
- ④ 昭和41年度における電子工学および電気通信の事業展望 表8・5 電気通信学会 第50巻9号 p. 172 (1704)
- ⑤ S. リリー：人類と機械の歴史 岩波新書 1965 (徳井輝雄)

容だから、消化できないでいるからである。

ついてゆけない生徒を最も多く生んでいるという数学でさえも、現代の社会への必要性からおして最少限のものをステップをふんで教えることは可能であり、数学のないコースを分化したり、消化しきれない内容を修了したことにしておくり出すことよりは、技術革新の現代そして将来に必要なとされる内容を、むしろ積極的に用意し、能力と進路に応じて工夫する努力の方こそが要求されると考えるのである。

多様化ということばが、進路と能力に応じた差別として現在使われているけれど、それとはちがった意味で差別につながらない、個性(進路・能力を含む)を育てるためのきめの細かい指導が保証される道がほしいと考える。

最後に付言するならば、もはや事態は高校の内容の改革だけで解決することではなく、当然に学制の改革が要求されねばならないし、特に高校・大学を今にして改革しないならば、悔を千載にのこすこと必至であろう。われわれの問題のとり上げ方はその弥縫策にすぎない。

(都築 亨)